

松本豊正様（医療法人三育会 新宿ヒロクリニック事務総括）

電子カルテ、そのデザインは理念と必然から生まれる  
～桜新町アーバンクリニック見学を終えて～

この度の見学では、主に電子カルテシステムを基軸とした事務サイドの運営の側面を学ばせていただくことが主眼でありました。

まず驚いたことは、医師が訪問に出向く際、パソコンを持たずに出かけるということ（カルテは全て iPhone で閲覧するとのこと）です。ではカルテ記載はどうするのか？iPhone では入力が大変だろうと思います。しかしカルテ入力は現場で行わずに、ディクテーションガイドにのっとり録音のみ行なう。録音データは専門スタッフにメール転送され、文字データとなって医師へ返される。医師はその責任において文字化された診療内容を確認し、電子カルテに貼り付ける、といった手順となるそうです。このことにより医師はカルテ記載の時間から解放され、より一層患者さんと向き合うことができるようになります。

このように診療の流れを見据えてデザインされた電子カルテシステムは、実はシステムを単体で作り上げたというだけでは成り立たないのではないかと思いました。まず感じるのは、桜新町アーバンクリニックの診療のスタンスがよく検証され整理されているということです。その上で、診療行為のひとつひとつが電子カルテシステムに反映されています。さらに、スタッフ間でも診療に対する考え方がよく理解され浸透し共有されているからではないでしょうか。桜新町アーバンクリニックのフラットな人間関係だからこそ、それを可能にしているのかもしれませんが。システムに対する合理的な考え方がベースにある上で、この電子カルテシステムが稼動しているのだなということを知ることができました。在宅医療のベースとなる運営システムのひとつの完成形を拝見させていただきました。年末のあわただしい中、貴施設への見学の機会をいただき本当にありがとうございました。

末筆になりましたが、皆様の益々のご発展とご多幸を心よりお祈り申し上げます。